



ぽれぽれしター ぽれぽれしター

第23号
2014.04.01

医療コラム

放射線治療 Q&A (放射線部 放射線治療部門)

理念

「人とよりそう ひらかれた病院」

病院基本方針

※安心・安全ながん医療を提供します
※医療提携を進め、地域医療に貢献します
※豊かな人間性を持った医療人の育成に努めます

診療案内

内科 外科 脳神経外科
整形外科 耳鼻咽喉科
婦人科 泌尿器科 放射線科
消化器科 緩和ケア科
乳腺外科 腫瘍外科

【診療受付時間】

午前8:30～正午

【診療時間】

平日 午前9:00～午後5:00

土曜 午前9:00～正午

【外来の休診日】

日曜・祝日・年末年始

【お見舞い時間】

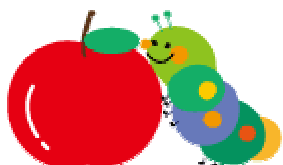
正午～午後8:00



院内のあんなところ こんなところ...



当院6階にテラスがあります。
日向ぼっこしたいけど外は肌寒い。
そんなときは是非ご利用下さい。



がん治療戦略において重要な役割を担う放射線治療。その放射線治療の簡単な疑問を Q&A 形式にしてみました。

Q1：がん放射線治療って？

高エネルギーの放射線を使ってがん細胞を壊す治療です。がん細胞（正常な機能を失って、周りの健康な細胞に悪影響を与える細胞）を壊すことができるため、手術や化学療法と並び現在のがん治療の三本柱の一つとなっています。

Q2：どんな治療なの？

患者さんは治療装置のベッドにじっと寝ているだけです。装置が体の周りを回って色々な角度から病気の部分に放射線を当てていきます。

治療中に動いてしまうと狙いが病気の部分から外れてしまうので、治療中は動かないことが大切です。

また治療装置から出てくる放射線の位置に病気の部分を合わせるため、皮膚目印（マーク）をつける必要があります。

このマークを基に体の位置を合わせていくため、治療期間中はマークが消えないように気を付ける必要があります。

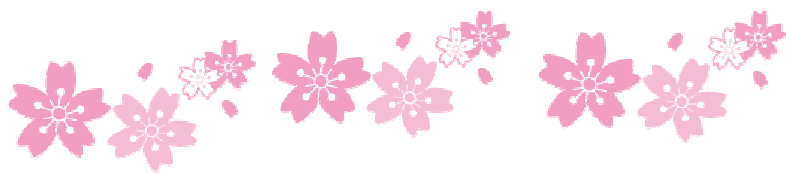


Q3：痛い？ 時間は長いのか？

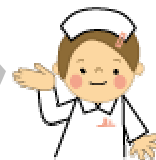
治療に使われる放射線は、胸のレントゲン撮影でも使われている“X 線”がほとんどです。撮影しても放射線が体にあたったと感じることがないのと同じで、痛みや熱感はありません。一般的な治療では装置に体の位置を合わせてから 5 分ほどで終了します。治療の部屋に入って出てくるまで 10～15 分ですが、初回の治療や画像による位置確認を行う場合などには、長くなる場合もあります。

Q4：治療の回数はどれくらい？

10 回であったり、25 回、30 回になる場合もあります。病気の部位や種類、治療方針にもよりますが、基本的にはがん細胞を壊す目標量に達するまで毎日少しずつ放射線を当てていきます。一度にたくさんの放射線を当ててしまうとがん細胞の周りの健康な細胞も壊れてしまうので分割することが必要です。健康な細胞は放射線によるダメージを回復する力が、がん細胞よりも強い（だいたい6時間ほどで回復）毎日ダメージを回復させながら、がん細胞にはダメージを積み重ねていきます。



新入職員紹介



2014年4月、また新たな仲間が彩都友誼会病院に加わりました。

薬剤師3名、診療放射線技師2名、看護師6名、社会福祉士2名の皆さんです。新たなメンバーが加わったことで院内にも春のさわやかな風が吹き始めています。新メンバーを加えると現時点で医師13名、看護師130名、薬剤師10名、診療放射線技師14名、臨床検査技師5名、理学療法士4名、言語聴覚士1名、作業療法士1名、臨床工学技士1名、臨床心理士1名、管理栄養師3名、看護助手24名、クラーク10名、SE1名、診療情報管理士2名、医事課8名、総務5名、地域医療連携4名、秘書1名、保育士9名、保育助手2名 総勢240名となります。



その他、外来診療については約30名の非常勤の先生方にご協力を頂いています。

彩都友誼会病院は、今年9月に設立8年目を迎えます。開設時にはまばらだった彩都の町並みにも多くの建物が立ち並び、彩都西駅には通勤・通学の人々も増えてまいりました。自然との調和が美しいこの町で、がんの診断・治療にスタッフ全員が連携・協力しあいながらより質の高い診療の実現を目指します。

アロマテラピーで花粉症対策



■お茶の時間に■

毎日のティータイムに、花粉の症状を緩和させる効果をもつハーブをブレンドしたハーブティーを飲みましょう。飲み続けることで症状を和らげるだけでなく、アレルギーへの抵抗力を高める効果も期待できます。

- *エルダーフラワー（ハーブ） 小さじ1
- *ネトル（ハーブ） 小さじ1
- *ローズヒップ（ハーブ） 小さじ1/2

※分量はティーカップ1杯分の目安です。人数や飲む量に合わせて、茶葉の量やお湯の量を調節して下さい。

■鼻やのどが不快なとき■

洗面器かマグカップに熱湯を張り、ユーカリまたはペパーミントの精油を3滴垂らし、蒸気とともに立ち上る精油の香りを吸い込みます。蒸気が逃げないように、洗面器の場合は頭の上からバスタオルをかぶり、マグカップの場合は両手で覆うようにするとより効果的です。 ※使用したマグカップのお湯は絶対に飲まないで下さい。

■マスクをする時に■

外出するときにマスクをする人はもう一工夫。マスクには大抵ガーゼがついていますよね？ そのガーゼの外側（マスクにあたる側）に、ユーカリまたはペパーミントの精油を含ませましょう。含ませる量はほんの少し。1滴では香りが強すぎるので、楊枝の先に精油を取り、それをガーゼに塗る程度で充分です。呼吸するたびに心地良い香りが鼻やのどを通り、鼻づまりやのどのかゆみの緩和に役立ちます。

■目がかゆいとき■

冷たい水を張った洗面器にラベンダー2滴とユーカリ1滴を垂らし、そこにタオル（コットン）を入れ、精油の油膜をすくうようにしながらタオルを水から上げ絞ります。このタオルを目の上に載せて冷やして下さい。目のかゆみが和らぎます。

編集後記：こんにちは。この度、編集委員の仲間入りとなりましたリハビリの春名と申します。皆様に彩都の魅力を存分にお伝えしていきたいと思っております。宜しくお願い致します。

発行者：中村仁信（病院長） 〒567-0085 茨木市彩都あさぎ7丁目2番18号
編集長：福西康修（放射） TEL072（641）6898 Fax072（641）6097
編集委員：宮田徹明（医師）岩切昭夫（看護）山田英津子（看護）常島啓司（情報）
志田原直子（医事課）春名雅裕（リハビリ）伴野真希（放射）

<http://www.saito-yukokai-hp.jp/index.htm>

「ぼれぼれ」はホームページからダウンロードできます！

このニュースレターご希望の方は総合受付・地下受付にお越し下さい

